

# 白氏文集 二十五 澗底松

加藤淳平

寒雋<sup>かんしゆん</sup>を念ふ、即ち世の認めざる俊才を歌ふ詩なり。唐の政治は、身分制に基づく地主貴族の政治より、隋に始まる科擧の選拔せる科擧官僚の政治へと移行し、白樂天の生きたる中唐は、舊來の地主貴族と新しき科擧官僚の政争、最も激しき時代なり。後者に屬する樂天の、世に用ゐられざる俊才を惜しむ氣持、殊の外強かりけむ。

澗底松 念寒雋也 澗底の松 寒雋を念ふ也

有松百尺大十圍

松有り百尺 大なること十圍

生在澗底寒且卑

生じて澗底に在れば 寒にして且つ卑し

澗深山險人路絶

澗<sup>たに</sup>深く 山<sup>けは</sup>險しくして 人路絶ゆ

老死不逢工度之

老死するも 工の之<sup>は</sup>を度るに逢はず

天子明堂欠梁木

天子の明堂 梁木を欠く

此求彼有兩不知

此<sup>こゝ</sup>に求め 彼<sup>かしこ</sup>に有れど 兩<sup>ふた</sup>つながら知らず

誰諡蒼蒼造物意

誰<sup>ま</sup>か諡らむ 蒼蒼たる造物の意

但與之材不與地

但<sup>ただ</sup>之に材を與へ 地を與へず

金張世祿黃憲賢

金張は世祿 黃憲は賢

牛衣寒賤貂蟬貴

牛衣は寒賤にして 貂蟬は貴なり

貂蟬與牛衣

貂蟬と牛衣と

高下雖有殊

高下 殊<sup>こと</sup>なる有りと雖も

高者未必賢

高き者 未だ必ずしも賢ならず

下者未必愚

下なる者 未だ必ずしも愚ならず

君不見沈沈海底生珊瑚

君見ずや 沈沈たる海底に珊瑚を生じ

歷歷天上種白榆

歷歷たる天上に白榆を種<sup>う</sup>うるを

(大意) 高さ百尺、幹は十かかへもある見事な松の大木が、寒くて低い谷底に生えてゐる。谷は深く山は険しいので人の路が無く、老死しても 大工が良材と探すのに逢ふことはない。一方では皇帝が太廟を建てるのに梁<sup>はり</sup>にする良材が無い。此處では良材を求め、遠くの谷底にはそれがあるが、兩者は互ひにそのことを知らない。蒼蒼と廣がる天が萬物を造つた意圖を、誰が知るだらうか。谷底の松には良い材質を賦與しながら、良い地を與へない。翻<sup>ひるがへ</sup>つて人の世を考へると、漢の時代の金日磾<sup>せん</sup>や張湯は、祖先のお蔭で代々の祿を受けたが、賢人の名が高かつた黃憲は、父が獸醫といふ貧家の生まれのため貧しい生涯を送つた。黃憲が身に纏つた牛と同じ麻衣は、寒くて身分の賤しい人のものだが、貂蟬といふ貂<sup>てん</sup>や蟬の飾りの附いた冠は、身分の高い人が身に着ける。貂蟬と牛衣と、身に着ける人に身分の高い、低いはあるが、身分の高い人が必ずしも賢者ではなく、低い人が必ずしも愚者ではない。深い海底には貴重な珊瑚が生じ、物皆が光り輝く天上のやうな宮中には、ありふれた白榆の木を植えるのを、君は知つてゐるだらう。

(平成二十九年十二月三十日受附)

お詫びと訂正

事務局の不手際により、加藤原稿の番号と内容が食い違ってしまった。すでに、メルマガの段階で今年の初めから番号がずれています。

メルマガは次のようになっています。

平成29年11月号	白氏文集二十三	隋堤柳（上）
平成29年12月号	白氏文集二十四	隋堤柳（下）
平成30年1月号	白氏文集二十三	澗底松
平成30年2月号	白氏文集二十四	草茫茫
平成30年3月号	白氏文集二十五	黑潭龍

二十三、二十四のあと、二十五にならずに二十三、二十四、二十五とってしまったので、その後、最新号に至るまで、番号が二つずつずれています。

今回から上架分については、正しい番号を記載し、メルマガについても、10月号からは正しい番号に致します。

御迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。